むずかしい能楽入門講座

幽玄ってなんだろう？

能楽は、世界が認める素晴らしい芸術！

今、話題の「世界遺産」は、ユネスコ世界遺産条約にもとづいて登録された、世界のすべての人々が共有し、未来の世代に引き継いでいくべき文化財や自然環境のことです。

これに続き、民俗音楽やお祭りなど、いちど途絶えてしまうと形の残らない文化遺産を保護するために、ユネスコは「無形文化遺産保護条約」を採択しました（２００３年）。この条約の発効に先立ち（＊注）、わが国の能楽は、「人類の口承及び無形遺産の傑作」として宣言されました（２００１年）。この傑作宣言によって、能楽は条約発効後、「世界無形遺産」として登録されます。

人類の傑作として世界が認める「能楽」を、私たちももっと知っておきたいものです。

＊注：この条約は、締約国が３０カ国に達した３ヶ月後に有効となり、現在日本を含む１９カ国が批准しています。

能楽基礎知識①

能楽（能ともいう）は、日本を代表する芸能で、およそ６００年前に生まれました。

室町時代の将軍足利義満のとき（１４世紀の終わりごろ）、観阿弥・世阿弥というすぐれた役者たちが、それまで曲芸や物まねを演じてみせていた猿楽を、より芸術性の高い歌舞劇へと発展させ、「猿楽の能」と呼ばれました。江戸時代には、幕府や大名が、重要な儀式や祝宴をするときに催す式楽とされました。「能楽」と呼ばれるようになったのは、明治以降のことです。

能楽基礎知識②

能には、劇の台本となる謡曲（謡本）、専用の舞台（能舞台）、扮装用の仮面（能面）や舞台衣装（能装束）があり、その道の修練を積んだ能役者（主役をシテ方、脇役をワキ方という）や演奏者（囃子方）によって上演されます。

現在、観世・宝生・金春・金剛・喜多のシテ方５流のほか、ワキ方３流（下懸宝生・高安・福王）、狂言方２流（大蔵・和泉）、囃子方１４流（笛方３流、小鼓方４流、大鼓方５流、太鼓方２流）があります。

なぜ、八代に能面や能装束があるのでしょう？

現在、博物館で展示している能面や能装束は、江戸時代、肥後藩の家老をつとめた松井家が保存してきたものです（現在は財団法人松井文庫所蔵）。松井家は、肥後藩主細川家にあつく信頼され、およそ２２５年間にわたって八代城に在城しました。

当時の武家では、お正月や人生の節目となるお祝いのとき、また、大切なお客様を迎えたときなどに、能を上演して楽しみました。そのため、能に用いる道具を揃えたり、自ら能を習ったりして、上手になる人がたくさんいました。

八代でも、八代城本丸内に能舞台があり、たびたび能が上演されました。松井文庫の能面や能装束は、質の高いものが多く揃っていることで全国的に有名です。

八代にも、能舞台があった！

明治になると、八代城内の能舞台はなくなってしまったようです。

しかし、能を愛する伝統は大切に守られ、とくに松井祥之氏（１９２３～８２）は、重要無形文化財「能楽」保持者の指定を受けるほどの実力者で、能の継承と発展に努力されました。

松井家の能舞台は、現在の市博物館（ここ）敷地内（駐輪場の辺り）にありました。

昭和６１年（１９８６）、熊本・水前寺公園内にある出水神社に移築され、現在も盛んに能が上演されています。

熊本・水前寺公園内にある出水神社の能舞台

幽玄ってどんな意味？

能を表現するとき、「幽玄」という言葉がよく使われます。この幽玄とは、いったいどんな意味なのでしょう。代表的な辞書には次のように書かれています。（『大辞泉』より）

一、物事の趣が奥深く、はかりしれないこと。また、そのさま。

二、中世の文学・芸能における美的理念の一。（ア）歌論などで、優艶を基調として奥深い、静寂な余情、象徴的な情調のあること。（イ）能楽論で、優雅で柔和な美しさ。美女・美少年などの優美さや、また寂びた優美さをいう。

本展示を通じて、わが国を代表する美的理念「幽玄」を味わっていただければ幸いです。

八代能楽史略年表

年　号	西　暦	八代の出来事　(太字は中央での出来事)
元弘　３年	**１３３３**	**鎌倉幕府が滅びる。観阿弥生まれる。**
建武　元年	１３３４	後醍醐天皇の臣名和長年の長男義高が八代荘の地頭になり、一族の内河義真が代官として下向し、古麓城を築く。
貞治　２年	**１３６３**	**この頃、世阿弥生まれる。**
永和　元年	１３７５	将軍足利義満が観阿弥･世阿弥父子の能を見物する
応永　７年	１４００	世阿弥の最初の芸論『風姿花伝』第三まで成る。
永正　元年	１５０４	相良氏が名和氏を攻め、古麓城に入る。
天文　５年	１５３６	相良氏お抱えの能役者宗像右衛門太夫が陣内（古麓城下）で能を演じる。熊本県で能が行われた最初の記録。以後、城下や正法寺、荘厳寺などで能を上演したことが『八代日記』に記されている。
天正　９年	１５８１	島津氏が相良氏を降伏させ、八代を支配する。
天正１１年	**１５８３**	**この頃から慶長初年まで、細川幽斎･忠興父子、丹後で盛んに演能。**
天正１４年	１５８６	島津義久、八代正法寺にて能興行（翁付七番)。京都の能役者渋谷与吉郎、対馬丞父子が演じる。
天正１５年	１５８７	豊臣秀吉が九州を平定し、佐々成政が肥後領主となる。
天正１６年	１５８８	佐々成政が切腹。小西行長が肥後南部の領主となり、麦島城を築く。加藤清正、秀吉の小姓で金春安照（金春流の役者）の弟子中村政長を召抱える。
慶長　５年	１６００	関ヶ原の戦により小西氏滅亡。加藤清正が肥後領主となる。
元和　５年	１６１９	地震で麦島城崩壊。加藤家の家老加藤正方が松江城（現在の八代城）を築く。元和８年完成。
寛永　９年	１６３２	加藤氏が改易され、細川氏が肥後に入る。八代城には藩主忠利の父三斎（忠興）が入る。
寛永１０年	１６３３	三斎、本丸にあった能舞台を建て直す。
正保　３年	１６４６	三斎没後、細川家の筆頭家老長岡（松井）興長が八代城に入る。
寛文　７年	１６６７	藩主細川綱利が八代城に光駕。能七番が興行される。
慶応　４年	１８６８	八代の町方衆、春日神社で狂言を上演する。
明治　３年	１８７０	八代城廃城。
昭和　９年	１９３４	弓削家の能舞台（現本町緑地公園にあった）を、松井家に寄贈。
昭和４４年	１９６９	金春松融会発足（松融会、熊本金春会と合併）
昭和５０年	１９７５	松井祥之氏（重要無形文化財保持者認定）
昭和６１年	１９８６	松井家の能舞台（現博物館駐輪場辺りにあった)、出水神社に移築。

ユネスコ憲章を知っていますか。

「戦争は人の心のなかで生まれるものであるから、人の心のなかに平和の砦を築かなければならない。」

　―――これは、１９４５年、第２次世界大戦後に発足した「ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）憲章」の前文です。自国の文化を知り大切にすることは、他国の文化も知り、また尊重することにつながります。